

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.172

発行:平成30年6月1日

講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

「フラワーハンギングバスケットを作ろう」



とき 平成30年6月3日(日) 教材費 ¥2,500

午後 1:30~3:30 定員各20名

講師 フラワーマスター 山本 裕美さん



「夏に楽しむ花の寄せ植えづくり」

とき 平成30年6月17日(日) 教材費 ¥2,000

午後 1:30~3:30 定員20名

講師 相談員



「庭木の剪定実習」 ツツジ類などの花木

とき 平成30年6月24日(日)

午後 1:30~3:30 定員20名

講師 公園緑地協会 職員



「花木の植やし方基礎講座」

とき 平成30年7月1日(日) 教材費 ¥500

午後 1:30~3:30 定員20名

講師 相談員

「観葉植物の寄せ植え作り」

とき 平成30年7月8日(日) 教材費 ¥1,000

午後 1:30~3:30 定員各20名

講師 相談員



「子どもの多肉植物の寄せ植え」

とき 平成30年7月22日(日) 教材費 ¥500

午前9:00~11:00 定員10組(小学生・保護者)

講師 相談員



New

連続講座(2回全て参加できる方) 高級食材「はまぼうふう」を栽培してみよう!!

①6月16日(土)「はまぼうふうの現状と栽培」全2回 20名

②9月22日(土)「はまぼうふうの種まき」 教材費 ¥1,000

講習会の時間は13:30~15:30です。



すまし汁

酢味噌和え

天ぷら

〈連続講座の受講生の方々へ〉

☆6月9日(土)第2回「誰でも楽しめる美しい菊ガーデン講座」 時間:13:30~15:30

☆6月23日(土)第2回「これから始める家庭菜園」 時間:13:30~15:30



〈大雪アリーナ〉

~花フェスタ2018~

6月6日(水)~10日(日)

※緑の相談コーナー併設

10:00~16:00

お気軽にお越しください

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日(祝日の場合は翌日)

11月~3月は毎週月曜日が休館日 (")

〈園芸の基礎知識〉 植物の花成と開花

～ 栄養成長から生殖成長への転換 ～

■植物の生活環

多くの植物は、春や秋に花を咲かせます。発芽して蕾をつくるまでの成長は、栄養成長と呼ばれるのに対し、蕾をつくり始めてからの成長は、生殖成長と呼ばれます。

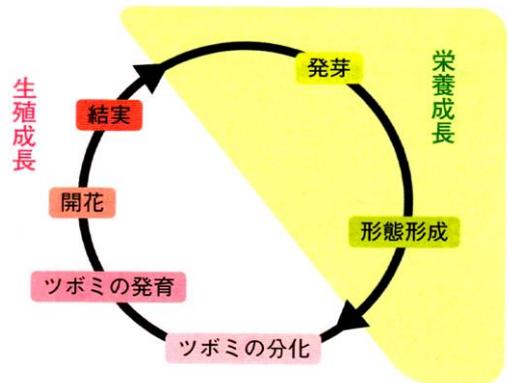
■栄養成長から生殖成長へ移行

栄養成長から生殖成長に移行し、花芽が形成されることを花成といいます。花を觀賞するユリやチューリップ、カーネーションなどの草花は、蕾ができ、花が咲く生殖成長へ移行してこそ、その価値が生まれてきます。また、ナスやトマト、ピーマンなどの果実を食用とする野菜の場合、蕾ができ、花が咲いてこそ、その価値は上がります。一方、葉や根を食用にしているホウレンソウやダイコンなどの野菜の場合、蕾ができ、花が咲く生殖成長へ移行すると、種子をつくるために、葉や根に蓄えられていた栄養が使われます。そのため、葉や根に栄養価が少なくなり、野菜としての価値は低下してしまいます。

■なぜ、秋に、多くの植物は種子をつくるのか

多くの草本植物は、蕾が分化したときと同じ条件下で発育し、1～2カ月以内にその蕾は花が開きます。そのため、蕾の分化する季節が、花が咲く季節とほぼ一致します。多くの植物が秋に花を咲かせるのは、種子をつくるためです。冬の寒い期間を種子で過ごすために、秋に蕾をつくって花を咲かせ、種子をつくるのです。一方、蕾の分化と花が咲く季節が大きく離れている植物も多くあります。春咲きの樹木類や球根類です。サクラやチューリップの蕾は、花の咲く前年の夏にでき、蕾のままで冬を迎え、寒さを耐えしのぎます。

(参考資料:ソフトバンククリエイティブ「植物学「超」入門」、「花のふしぎ100」ほか)



緑の相談 Q&A (46)

母の日に子どもからもらった鉢植えのアジサイを、ラッピングのまま、日当たりの良い玄関フードに置いていましたら、ここ1週間位で全体がグタツとなりました。あわてて庭に植えましたが、一向に回復しないので、掘り出してバケツに入れて今水揚げをしています。これから根の悪い部分を取って植え替えたいと思いますが、方法や注意点を教えてください。



セイヨウアジサイは、寒さには強いですが夏の暑さや乾燥には弱い植物です。たぶん、ここ数日の高温続きで、玄関フード内の温度が40℃近くまで上昇し、ラッピングされていたことで、蒸れたのではないかと思います。現在、水揚げされているようですので、日陰に移してしばらく様子を見てください。2～3時間たって茎と葉がピンとしましたら、傷んだ葉や茎などを整理して、屋外の半日陰の場所に植えて、腐葉土などでマルチングしてからたっぷり水やりしてください。また、鉢植えにする場合は植え込んでから1週間くらいは日陰に置いて鉢土が乾かないように毎日水やりしてください。半日程度水揚げしても、茎や葉が萎れたままの状態ですと、回復するのが非常に難しいと思われます。

(参考資料:北海道新聞社「北で育てる魅力の花」、NHK出版HP「みんなの趣味の園芸」ほか)

※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー (Q&A)」を掲載しています。こちらでもご利用ください。

植物の病虫害

その43 「つる割病」



葉の症状



茎が縦に割れる



茎の地際部

1 寄生しやすい植物

野菜（キュウリ、スイカ、マクワウリ、メロンなどウリ科植物、アサガオなど）。

2 被害

キュウリのつる割病は、高温時に発病しやすい病気です。初めは株の片方の下葉が日中に萎れて、夜には回復し、これを繰り返します。症状はだんだんと上の葉に、もう片方の葉にも及び、全体が萎れます。やがて葉の色が黄色になります。キュウリの生育が極端に悪くなり、実のつきも悪くなります。初めに萎れて黄色くなった葉は枯死して落ちます。そのうちに茎の地際部から黄褐色に変色してヤニが出たり、茎が縦に割れて、白色や鮭肉色のカビが生えたりします。症状はトマトやナスの病気の萎凋病、半身萎凋病に似ています。

3 生態

土壌伝染性病害で、病原菌は土壌中に生存することができ、根の先端などから侵入します。ウリ科植物を連作した場合や、酸性土壌で発生しやすくなります。また窒素肥料を与え過ぎると発病を助長します。地温が 20℃程度以上の比較的高温で、雨が続いた後の晴天の時などに乾燥すると急激に病状が進みます。トマトなどに見られる青枯病と似ています。

4 防除法

・予防対策: 接ぎ木苗を使うことが一番の対策です。用土の太陽熱消毒も有効です。キュウリには窒素成分が入っている肥料を与え過ぎると発病しやすくなります。石灰や完熟堆肥の施用も発病を抑えるのに有効です。

・つる割病に感染した場合: つる割病は治療するのが難しい病害です。つる割病にかかったキュウリの株は取り除き、畑の外で処分します。

・薬剤の使用: 種子伝染するので自家種は種子消毒してから種まきします。育苗中に発病した場合、定植後すぐにベノミル水和剤(商品名 ベンレート水和剤)を7~10日間隔で2~3回灌注(土中にしみこませる)すると発病をある程度抑えることができます。

「まめ知識」: カボチャ、トウガン、ユウガオはつる割病に強く、これらを台木にした接ぎ木苗が市販されています。注意は、台木の上の部分まで深植えしないことです。

クジャクサボテンを楽しむ

サボテン科 エピフィラム属



別名オーキッド・カクタス(ランのようなサボテン)と呼ばれ、ゴージャスな花を咲かせるクジャクサボテンは、中南米原産のいろいろな属のサボテンを交配してできた園芸品種群です。原種は主に雨が少ない山岳地帯や高原の草原・林内に自生する森林性サボテンの仲間で、夜に咲き妖艶な姿と強い香りがする「月下美人」と同じ仲間です。花の形は月下美人によく似ていますが、月下美人の花は夜に咲くのにに対してクジャクサボテンは日中に咲きます。花色は白・黄・朱色・オレンジ・ピンク・紫など。

○失敗しない管理のコツ

春から秋にかけては、日当たりと通風のよい場所に置きますが、真夏は半日陰に移します。冬場は5℃以上を保ち乾かし気味に管理します。水やりは4～7月は、鉢土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。花芽をつけさせるには、8月以降は水やりの回数を徐々に減らしていき、10月～翌年3月までは鉢土を乾かしぎみに保ちます。5月と9月下旬にそれぞれ2回ほど2,000～3,000倍の薄い液肥を与えます。

○花が終わったら

- ①咲き終わった花からは早めに摘みとります。植え替えは2年に1回。適期は真夏を除いた5月中旬～9月。用土は水はけの良い土(赤玉土(中粒)5:腐葉土3:堆肥2の混合土か市販のサボテン培養土)を使い、成長期の春から秋にかけてリン酸とカリの多い肥料を施して育てると花つきがよくなります。
- ②葉は放っておくと、どんどん伸びて倒れやすくなる上に栄養がとられて花が咲きにくくなります。品種にもよりますが60cm程度に伸びたら葉の先を切ってしまい、それ以上伸びないようにすると葉の成長が抑えられて花がつきやすくなります。この作業は5月～9月に長く伸びた葉を対象に適宜行うようにします。栽培は、アンドン仕立てにしたり、小輪種などはハンギング仕立てでも楽しまれています。

展示室の植物 (79)

ブラシノキ

学名: *Callistemon speciosus* フトモモカ科 ブラシノキ属

ブラシノキの和名をもつ学名スペキオススの最大の特徴は花の姿です。花はピンを洗うブラシそっくりの姿をしていることから、英語ではボトルブラッシュと呼ばれます。また、ブラシのように見える花の先にも枝



が伸びるとい珍しい特徴を持っています。

原産地はオーストラリアで、ブラシノキ属には34種があって、そのうちの数種が観賞用(庭木、切り花や枝もの)として利用されているそうです。果実は枝全体を取り巻く昆虫の卵のように見えますが、成熟して乾燥すると果皮が裂開して粉状の種子を散布する性質(朔果)があり、森林火災が起こると割れて種子を放出する植物として知られています。